



植樹記念標柱を建立し記念撮影（植樹祭に参加した葛巻小6年の児童ら）

豊かな森林をみんなの手で 植樹祭に児童ら約300人が参加



第14回葛巻町植樹祭（葛巻町産業振興協議会主催）は5月18日、東京都の小岩金網（株）が袖山地区に所有している「こいわの森」で開催されました。

この活動は、貴重な財産である森林と環境を大切に育むことを目的として開催され、葛巻地区森林愛護少年団（小屋瀬）や町内の小学校、企業の森関係者、一般町民など約300人が参加しました。

開会式のと、植樹場所まで山道を30分ほど登り、県企業局提供の「ミズナラ」の苗木300本を植樹。参加者は斜面での作業や硬い土に苦戦しながらも、スコップやトウガを使って土を掘り、苗木に土や葉をしっかりとかぶせました。植樹祭に参加した江刈小学校の

波紫寛斗さん（6年）は、「根が長くて植えるのに苦労しました。大人になってから、今日植えた木がどんな風に成長しているか見に来たい」と願いを込めました。

子どもたちははじめ多くの町民が森林と親しみ、森林を守り育てる意識を高めた一日となりました。

受精卵移植、改良に成果

県内2頭目 乳牛の種雄牛誕生

生産者

岩泉 篤さん（55歳・寺田）

繁殖者

藤森 雅美さん（61歳・浦子内）



祝う会で喜びを語り合う岩泉篤さん(右)と藤森雅美さん



K1 プレッシング ジェット ET
（写真提供：家畜改良事業団盛岡種雄牛センター）

葛巻町の酪農121年の歴史で、2頭目の種雄牛が誕生しました。県内では当町のみで、東北では4頭目の種雄牛誕生となりました。

種雄牛に選ばれたのは、寺田の岩泉牧場（岩泉篤さん経営）で生まれた5歳の「K1・プレッシング・ジェット・ET」。JA新いわての「乳成分改善モデル事業」を活用し、星野の藤森牧場（藤森雅美さん経営）で交配した受精卵が岩泉牧場で受胎し誕生しました。当町では平成20年に松村牧場（田代・松村文継さん経営）の生産牛が種雄牛に選ばれており、この5年間で2頭の種雄牛誕生に関係者は喜びに沸いています。

本牛「ジェット」は、厳しい検定を通じて選抜され、NTP（牛の体型や乳量などの総合指数）で全国25位の成績。4月から全国の酪農家に向けて凍結精液の提供が行われています。

町内から2頭目の種雄牛誕生と酪農のまち「くずまき」を情報発信しようとして5月9日、町内の酪農家など89人が出席し、グリーン

テージで祝う会が開催されました。2人の徹底した交配努力や牛群管理など、日ごろのひたむきな努力に、出席者一同大きな拍手を送りました。

藤森さんは「事業が成功し一安心している。誰にでもチャンスはある。担い手のやる気にもつながる。」と種雄牛の誕生を喜びます。岩泉さんは「町には改良を重ねながら121年受け継いできた偏差値の高い牛が揃っている。次の種雄牛誕生も夢ではない。優秀な遺伝子を販売し活路を見いだしていきたい」と抱負を語ります。

酪農家は、一層の経営安定のため、体格がしっかりし乳量の多い、より優れた牛を育てるため、共進会への出品や研修などで乳牛改良の腕を磨いています。

町内から2頭目の種雄牛誕生は、町内の酪農家が乳牛改良に日々研鑽を重ねた技術の総合評価で、後継者に大きな夢と希望を与え、酪農に携わる皆さんの力と、町民の誇りにつながるものと、会場いっぱい喜びの笑顔が広がりました。